

あなたの顔を日の光に向けていなさい。そうすれば影を見なくてもすみます。いつも真理に目を向けていなさい。そうすれば、あなたの心から不安や心配は消えます。

問題と対峙しなさい、でも決してそれに支配されてはならない、その問題から、忍耐と思いやりを学ぶのです、自分や他の人の人生にどんな奇跡を引き起こすか分からない

どんなものにも驚きがある。

暗闇や静寂にさえも。

そして、わたしは自分がどんな状況にしようとも、その中で満足できるということを学ぶ。

どちらの方向に足を向けても困難が私たちを待ち受けています。

人生ある限り困難は必ずついてまわります。

こうしたものはその人の人格から作り出されるのです。

世界で最も素晴らしく、最も美しいものは、目で見たり手で触れたりすることはできません。

それは、心で感じなければならぬのです。

困難に立ち向かう一番確実な方法は、自分は不滅であると信ずること、そして一睡もしないで見守ってくれる友人があること、その友人は信じて委ねゆだねさえすれば私たちをじっと見守ってくれ、導いてくれることを信じることです。

幸せの一つの扉が閉じると、別の扉が開く。

しかし、私たちは、閉ざされた扉をいつまでも見ているために、せっかく開かれた扉が目に入らないことが多いのです。

私は、自分の障害を神に感謝しています。

私が見出した、生涯の仕事、そして神を見つけることができたのも、この障害を通してだったからです。

あの白百合のように、はじめじめした環境にいても、清らかに、すこやかに生き抜くことができない限り、どんな環境にいても、弱い人間にしかならない。

結局、真の知識を得ようと望むものは、だれでも「かんなん 艱難の山」をひとり登らなければならず、頂上への王道がない以上、私は曲がりくねりながらも登らねばならぬことに気づいたのです。